



広島中央トピックス

リゾケア種子 水稲たん水直播 試験栽培



J A広島中央地域は、水稲コーティング種子「リゾケアXL」のたん水直播栽培の試験栽培に取り組んでいます。2026年産は管内3戸が2.2haで栽培。稲の生育状況や収量、コスト低減効果を調べ、技術の確立と普及を目指します。

同地域は2015年にたん水直播機を導入し、組合員に貸し出しています。直播技術の一つとして2024年から「リゾケアXL」の試験を始めました。「リゾケアXL」は、殺菌剤や殺虫剤、種子の酸欠を防止する薬剤がコーティングされた種子。直播栽培で課題だった発芽率や苗立ちの安定が期待されます。八本松町の橘川一則さんは、2024年から「リゾケアXL」の栽培に取り組んでいます。昨年の収穫量は、移植栽培と同等だったといいます。



▲たん水直播機でコーティング種子を播種する橘川さん

5月中旬には33aに「あきさかり」の種を播きました。橘川さんは「育苗や苗を運ぶ作業が省けるので、一人で作業ができ、省力化に大きな効果がある」と評価します。

J A広島中央地域営農経済センターの西田聡センター長は「担い手不足が進む中、省力化技術を導入することで持続可能な農業に貢献したい」と話します。

無コーティング種子代かき同時 播種 農事組合法人郷曾



西条町の農事組合法人郷曾は、無コーティング種子代かき同時播種栽培に取り組んでいます。同栽培法を導入して5年目の今年度は、1.2haで「恋の予感」を栽培。法人の高齢化が進む中、省力化技術の定着を目指します。

同栽培法は、トラクターに専用の播種機を取り付け、代かきと同時に催芽処理した種もみを播種、鎮圧します。代かきと同時播種することで、大幅な労力軽減とコスト削減が期待できます。播種機は、J A広島中央地域が2022年に導入し、管内の生産者に貸し出しています。同法人はJ Aが導入した当初から実証試験に協力。営農指導員の指導を受けながら播種直後の水管理や除草対策、防除などを実証してきました。



▲無コーティング種子を代かきと同時に播種する法人メンバー

2025年度の収穫量は、移植栽培に比べて約15%少ないものの、育苗や田植え作業が省けたことで労力軽減に大きな効果がありました。

同法人の市川宏行代表は「高齢化や担い手不足が今後、深刻化していく中、労働者の負担を減らせる技術は積極的に導入したい」と力を込めます。

乃美尾小学校田植え



乃美尾小学校
校5年生11人
は5月18日、
黒瀬町で田植

えを体験しました。J A黒瀬支店ふれあい委員会と、自然体験学習に協力する地域協議会「エコーNNくるせ」が協力。同委員会の池田康則副委員長の田んぼ5aで、「ヒノヒカリ」を手植えました。



▲田植えを体験する児童

三永小学校田植え



三永小学校
校5年生60
人は5月29
日、西条町の

仲伏英雄さんの田んぼ3aで、田植え体験をしました。

J A西条アグリセンターの協力で、もち米「コノエモチ」を手植えました。



▲仲伏さんに教わりながら田植えをする児童



水稲

◆令和8年産の生育について

令和8年産は、田植え後おおむね順調に生育しています。

今年は春先から気温が高めに推移し、初期生育は平年並みからやや早い傾向となっています。一方で、今後は高温による品質低下や病害虫の発生増加が懸念されるため、適切な水管理と適期防除の徹底が重要です。

◆水管理

7月は幼穂形成期から出穂期を迎える重要な時期です。この時期の水管理は収量や品質に大きく影響するため、圃場の状態を確認しながら適切に管理しましょう。

！出穂前後は水切れ厳禁！

出穂前後の約20日間は、水稲が最も水を必要とする時期です。この時期に水不足になると、粒数の減少や登熟不良など収量や品質に大きな影響を

及ぼします。

また、近年は、夏季の高温による品質低下が問題となっており、特に出穂後の高温は、乳白粒や白未熟粒の発生原因となるため、高温が続く場合は飽水管理を行い、地温上昇を抑えましょう。

入水のタイミングは、気温の低い早朝や夕方に行うことで、水温上昇を抑える効果が期待できます。出穂前後は浅水管理を基本とし、水が切れないように心がけましょう。

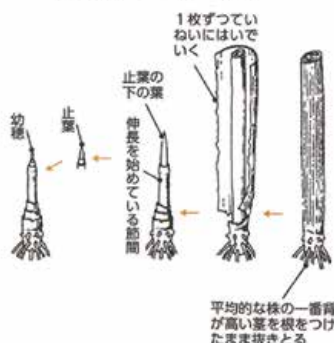
◆穂肥

穂肥は必ず幼穂長を確認して施用してください。出穂24日前頃を幼穂形成期といい、稲は葉を増やすのをやめて、茎の中で粒の集合体である穂を作ります。これを幼穂(穂の赤ちゃん)とも言います。稲を割って幼穂が確認できたら穂肥を散布します。

穂肥は一般的に2回に分けて施用します。これは栄養を補う時期によって目的が異なるからです。1回目の穂肥は、穂数・粒数の確保を目的とし、2回目は粒の実り(登熟)の向上を目的とします。どちらも散布には適正な時期と施用量があるので水稲栽培ごよみを参考に管理しましょう。

1回目の穂肥は、出穂24日前(幼穂形成期)頃に施用し、止葉の生長を良くします。品種によっては若干散布の時期が異なります。コシヒカリは節間長(稲の節)が伸びやすく倒伏の恐

【幼穂長の調べ方】



【穂肥施用時期等のめやす】

品 種	施用時期	幼穂長	草 丈	葉色
コシヒカリ	出穂18日前	8~15mm	65~70cm	3~3.5
あきろまん			70~75cm	4~4.5
中生新千本	出穂24日前	1.5~2mm	65~70cm	4
恋の予感			80~85cm	4

- 幼穂長
- 草丈は長すぎないか
- 葉色は濃すぎないか

確認しましょう

れがあります。この節間長が伸びすぎないよう、出穂18日前に1回目の穂肥を施用してください。施用量が多いと穂数・粒数は増えますが、品質低下の原因にもなるので注意が必要です。2回目の穂肥は出穂10日前頃に施用します。

◆カメムシ類

県内でカメムシ類の発生が多く、5月下旬に果樹カメムシ類の注意報が発表されました。果樹と水稲では加害するカメムシの種類は異なるものの、今年度も発生量が多いのは間違いありません。

出穂期から乳熟期にかけては被害を受けやすく、斑点米の原因となり品質低下や等級落ちにつながります。圃場を定期的に確認し、水稲栽培ごよみに基づき適期防除を行いましょう。

●出穂前後の粒剤防除ポイント

粒剤は水に溶け、稲の根から吸収され効果を発揮します。そのため、穂が出始める前に1回目の防除を行います(出穂5~15日前)。2回目の防除のタイミングは1回目を散布した2週間後に散布するようにしましょう。

◆紋枯病・稲こじ病

出穂期以降の高温多湿条件では、紋枯病や稲こじ病の発生が懸念されます。紋枯病は粒の変色や粒枯れ症状を引き起こし、稲こじ病は粒に黄緑色の塊を形成し品質低下の原因となります。

薬剤での対策ではモンガリット粒剤(3~4kg/10a)を出穂前21~14日前に散布するようにしましょう。
※農薬使用前には必ずラベルを確認しましょう。

野菜

夏野菜の収穫

◆カボチャの収穫について

春に植え付けたカボチャも早いものは7月下旬から収穫適期を迎えます。未熟なものは甘味がのっていないので適期の収穫を心掛けましょう。

適期判断は、果皮の状態を確認するのが最も良いです。未熟なものは果面に幼果特徴の毛が残り、色も淡く、凹凸がありません。適熟のものは果皮の色が濃くなり、凹凸が発生し、品種の特徴(カタログや種の袋を確認してください)が表れます。

収穫後は、涼しい場所に広げ、ヘタが乾くまで10日程度、乾燥させます。傷や打ち身があるものは早く傷みますので、取り扱いには注意し、早めに食べるようにしましょう。

◆ナスの管理

●剪定作業

樹の生長とともに葉や茎が伸びてきますので剪定作業が必要になります。剪定には、無駄な茎葉を整理することにより風通しと日当りを良くして病害虫の被害を軽減すること、また、収穫枝となる「側枝」の発生を促す、株に刺激を与えて活性オーキシンの分泌を促進する効果があります。

7月下旬から8月上旬にかけて、ナスの樹は完成形を迎えます。完成形とは、主枝からの収穫(一般的には3〜4本)が終了し、これ以降からは「側枝」からの収穫が主体となります。側枝を効率よく発生させるための剪定管理が必要となります。

摘芯



側枝の開花を確認したら、花の上の葉1枚を残して先を止め、すぐ下の脇芽はかいておきます。収穫時には果実の下葉と共に切り戻し、主枝に近い位置へ側枝の発生を促すよう管理します(切り戻し剪定)。



主枝が株元から約180cm前後(12〜14節)まで伸長したら、養水分の転

流を促進させるため先端を切除します(摘芯)。

●圃場の管理

せん定管理と併せ、施肥と灌水が重要になります。家庭菜園では、1株当たり30gの追肥とともに灌水します。ナスはマグネシウム(苦土)の欠乏症が発生しやすいため、「粒マグ25」などの苦土肥料を併せて施用します。いずれも通路に近い所へ施し、灌水も通路の際あるいは通路部に灌水して常に湿潤な状態を保つことが多収への近道です。

◆夏まきキュウリについて

春に定植したキュウリも収穫後半になり、樹も衰えてきているところだと思えます。7月に種をまく「夏まきキュウリ」は育苗期間も短く、比較的容易に栽培することができます。

種まきの時期をずらし、株を更新することで品質の良いものを長く収穫することができま。畑は事前に排水対策を行っておきましょう。

また、高温時での定植になるので植え付けは夕方に行い、活着まではこまめに水やりをし、しおれないようにします。曲がり果や尻細果などは水分の不足によって発生しますので、特に収穫が始まれば2〜3日間隔で灌水するようにしましょう。

◆この時期の野菜管理

- ①オクラ：収穫と同時に、直下の葉をかき取ります。
- ②カボチャ：うどんこ病に注意
- ③ピーマン：収穫が最大の樹勢管理。取り残し厳禁！
- ④トマト：石灰欠乏症に注意しましょう！

◆薬物野菜等

アブラナ科作物：栽培予定地の選定・土壌診断・種子及び肥料等の準備を！

※その他詳細については最寄りのアグリセンター・営農指導員にお問い合わせください。

◆病害虫対策

夏の乾燥によりハダニ類の発生、アブラムシ・コナガなどの発生、食害が見られます。よく観察し、適切に対応を行いましょう。

◆暑さ対策

株元に敷きわらや敷き草をして地温の上昇を抑えましょう。敷くときには、植え付け部分を隠さないようにします。また、白マルチやシルバーマルチを畦に被覆するのも効果的です。夏の作業は、熱中症対策も忘れずに行いましょう。こまめな水分補給や休憩を心がけましょう。

園児が野菜定植を体験 大和認定こども園



JA 大和支店・大和アグリセンターは5月13日、三原市の大和認定こども園の園児16人を対象に、夏野菜の定植体験をしました。食農教育活動の一環。園児は、JA職員に教わりながらトマト、ピーマン、オクラ、赤シソの苗をプランターに植えました。

水やりをして生育を見守り、収穫して給食などで味わう予定です。

大和支店の深川誠治支店長は「旬の野菜を食べてすくすく育ってほしい。大和町の宝である子どもたちを、地元JAとして支援していきたい」と話しました。



▲営農指導員に教わりながら苗を植える園児

商品知識深める 女性部支部長会議



JA 女性部広島中央地区本部は5月21日、高屋支店で支部長会議を開きました。支部長や部会長22人が参加。今年度の部会活動内容などについて話し合いました。

また、エコープマーク品の研修では、コーミ株式会社の馬場裕之さんを講師に招きました。国産トマトを100%使った「トマトケチャップこだわり素材」や、今年度の広島県女性部愛用品になっている「国産野菜をつかった農協のとるあまソース」の材料や製造工程や特徴などを説明。試食を交えて商品のおいしさやお薦めのレシピを教わりました。



▲商品の説明をするコーミ株の馬場さん



Information お知らせ

広島中央地域 アグリセンター 休日営業のお知らせ

7月4日(土)～8月16日(日)の土曜日・日曜日・祝日は休業します。また、秋の農繁期に次の期間、休日営業を実施します。

【農繁期休日営業 実施期間】
8月22日(土)～10月25日(日)
【営業時間】
午前8時30分～午後5時

農機センター農繁期休日営業と 盆休業のお知らせ

広島中央農機センターは、秋の農繁期に、次のように土・日・祝日の休日営業を実施します。

【農繁期休日営業 実施期間】
8月22日(土)～10月25日(日)
また、次の期間を盆休業とさせていただきます。休業期間中ご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願いします。
【休業期間】8月10日(月)～14日(金)

農業機械展示会について

例年7月に開催しておりました農業機械展示会につきまして、今年度は開催日を変更して開催する予定です。
詳細につきましては決まり次第改めてお知らせいたします。

東広島市
園芸センターより

土壌分析診断サービスのご紹介

東広島市園芸センターでは、土作り支援の一環として簡易な土壌分析・診断サービスを行っています。肥料が適量施用できているか、畑の土の特徴なども改めて確認し、より作物が育ちやすい土作りを目指してみませんか。

対象者：東広島市在住で野菜など園芸作物を出荷販売している方
分析内容：①pH ②EC ③NO3
申込方法：園芸センターもしくは、JAアグリセンターへ土を持参していただきます。畑の土の取り方にコツがあるので、事前にご相談ください。
料 金：無料

その他

- ・申し込みから回答まで1週間程度かかります。
- ・認定農業者、認定新規就農者、施設栽培農業者の方などには、さらに詳しい診断も実施しています。
- ・分析業者による土壌分析診断サービスを利用される方を対象とした補助事業もあります。
- ・詳しくは園芸センターホームページをご覧ください。



お申込・お問い合わせ

東広島市園芸センター Tel 082-433-4411